感謝報告

いずみの活動をおぼえて祈りとともにたくさんのご支援を頂き、心から感謝申し上げます。日本基督教団東日本大震災救援募金などの「いずみ」への指定献金をご報告いたします。記載落し・ミス等ございましたらご連絡ください。（敬称略・順不同・特別記載のない団体は教団の教会・団体です。）

＊個人献金 諸岡功，内田淑子(5)，遠矢沢代(温子)，井ノ上利恵，布田秀治，吉田嘉恵，唐牛健三，髙橋幸子，白井信吾，
（）内は回数 佐々木春代，井上有希子，樅山のぞ美，柳幸三郎・多恵子，貝森智能代，匿名 （合計 248,718円）

＊団体献金 宮城中地区教会婦人会，御影教会(5)，仙台北三番丁教会，横浜長老教会，城内シオン保育園，鳴子教会，
（）内は回数 秋田桜教会，若松浜ノ町教会(2)，所沢みくに教会，いずみ愛泉教会子どもの教会，野方町教会，黎明幼稚園，
千里聖愛教会(3)，仙台東一番丁教会，いずみ愛泉教会，阿佐ヶ谷教会，福岡市民クリスマス実行委員会，
狭山教会，静岡一番町教会，港南希望教会，社会福祉法人地の塩光の子保育園職員，信濃町教会教会学校，
三軒茶屋教会，神戸雲内教会，いずみ愛泉教会オリーブ会，仙台市民教会，仙台東一番丁教会青年会，
福岡女学院教会，全国教会婦人会連合，松山東雲女子大学・短期大学キリスト教センター，国分教会，
月寒教会教会学校，広島南部教会，武蔵野教会，駿府教会，アヒンサー （合計 698,773円）

＊全国募金 （2014年度合計 1,756,820円）

以上、感謝をもってご報告させていただきます。ご支援ありがとうございます。（2014年12月1日～2015年5月26日）

いずみの活動は国内外のキリスト教支援活動によって支えられています。

この活動を続けていくために皆様のご協力をお願いいたします。日本基督教団東日本大震災救援募金の受付は2015年 3月31日に終了しました。今後の献金は下記専用口座をご使用下さい。

ご支援のお願い

送金先金融機関 ゆうちょ銀行
口座番号 02220－5－137681
加入者名 日本基督教団東北教区
通信欄に 「放射能問題支援対策室いずみ指定献金」 とお書きください。

いずみの会

「いずみの会」は、「放射能問題支援対策室いずみ」の活動に賛同し、その活動を支えて下さる会員を募集しております。年会費は、正会員（一口3,000円）、賛助会員（一口1,000円）、団体正会員（一口5,000円）です。「いずみの会」入会専用の振込用紙がございますので専用振込用紙にてご入会下さい。年度更新のため、年会費の納入もお願いいたします。

お問い合わせは、放射能問題支援対策室いずみの会事務局（放射能問題支援対策室いずみ）までご連絡ください。

＊2015年 3月31日時点での「いずみの会」会員数

正会員 77名 賛助会員 58名 団体正会員 14団体 合計金額 586,295円（振込手数料、事務費差引後）

運営委員長 小林休（鳴子教会）
運営委員 明石義信（常磐教会） 保科隆（仙台東一番丁教会）
布田秀治（いずみ愛泉教会） 最上千絵子（仙台北教会）
室 長 保科隆（仙台東一番丁教会）
顧 問 篠原弘典（原子核工学専門家）
スタッフ 後藤重雄 渡辺広衛 服部賢治 笠松絹子

日本キリスト教団東北教区
放射能問題支援対策室いずみ
UCCJ Tohoku District Nuclear Disaster Relief Task Force “IZUMI”
〒980-0012 仙台市青葉区錦町1丁目13－6
TEL/FAX 022-796-5272
メールアドレス izumi@tohoku.uccj.jp
ホームページ http://tohoku.uccj.jp/izumi/

日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ ニュースレター第5号 2015年 6月11日発行

いずみ

題字 丹治正雄氏

いずみの会 初めての総会開催

これからの活動の重要性について説明する篠原弘典いずみ顧問

5月2日（土）午後1時30分から、仙台市青葉区錦町にある東北教区センター エマオ3階大会議室で、放射能問題支援対策室いずみの会(通称「いずみの会」)の第1回総会が開かれました。当日は、出席者数が16名、委任状41通と、正会員・団体正会員数の合計91名(2015年3月31日時点)の過半数を超えていることから、総会が成立しました。

松本芳哉いずみの会会長の挨拶のあと、放射能問題支援対策室いずみ室長の保科隆牧師から、2014年度の活動報告と、2015年度の活動計画が報告されました。次に、篠原弘典いずみ顧問から、宮城県内各地の市民活動グループとのつながりの中で、いずみの活動が今後ますます重要になってくるとのお話がありました。

活動報告を受けて、参加者の中から、「会費が現在の活動に使われておらず、2017年4月以降に使用されること」に関してのご質問がありました。このことについては、委員から「私たちの説明不足があったことを申し訳なく思います。」とのお詫びが述べられました。なお、いずみの会ではこのことを受けて、以下のような説明の文書を会員の皆様にお送りすることになりました。

「いずみの会は2014年4月に発足しました。この会の目的は、放射能問題支援対策室いずみ(以下「いずみ」)を財政的に支えることです。2017年3月までは、海外の教会の支援団体からの献金と、教団及び東北教区などの献金により活動できることが約束されておりますが、2017年4月以降はその献金がなくなります。
しかし、チェルノブイリの前例をみても、現在行っているいずみの働き、甲状腺検査、保養プログラムなどは、できるだけ長く継続されるのが望ましいかと考えております。そこで、いずみの会では、皆様からお寄せいただいた『いずみの会』の会費をプールして、2017年4月以降の活動時に用いさせていただこうと討議致しました。どうぞご了承ください。今後とも皆様からのあたたかなご支援を賜りますようお願いいたします。

2015年 3月31日時点での「いずみの会」会員数 等につきましては、今号の最終頁をご覧ください。

心と体をリラックス！！第7回 親子長距離保養プログラム in 沖縄

北日本宣教会議（北海道・奥羽・東北の三教区）といずみが共催する、第7回親子長距離保養プログラムを3月26日（木）～3月31日（火）の5泊6日の日程で実施しました。沖縄県宜野湾市にある沖縄教区センター「ぎのわんセミナーハウス」を主な滞在先として、子どもたちの春休み期間を利用しての遠方への保養プログラムです。2011年3月11日に発生した、津波と東京電力福島第一原発事故にともなう深刻な放射能汚染の状況をうけ、被災地域在住の親子を対象に、当初は北日本宣教会議が、春休みに沖縄、夏休み期間に北海道へと、1年に2回長距離保養プログラムを行ってきました。第5回からいずみも加わり、この第7回の長距離保養プログラムが実施されました。

このプログラムには9家族の親子27人、引率スタッフ4人の計31名が参加しました。奥羽山脈の頂に真っ白な残雪が多く残る東北から、真っ青な海に囲まれた沖縄でのひとときを過ごしました。放射能を心配しなくていい空気、食べ物、時間が参加者親子の心と体を次第に溶かしてくれた6日間でした。

プログラム内容

1日目　午後現地着　佐喜眞美術館　到着歓迎会
2日目　城山（ぐすくやま）など伊江島巡り
3日目　伊江ビーチでの海遊び　美ら海水族館
4日目　フリー　夕食後わかちあい
5日目　首里城見学　東浜公園でのピクニック
6日目　国際通りなど那覇市内散策　午後現地発

沖縄ミニフォトギャラリー

てっぺんまで競争だ！！
一番早いのはだーれ？

風が気持ちいいね！
←↓伊江島　城山（ぐすくやま）にて

芝生の上に寝っころがるなんて久しぶり

見て見てママっ！

美ら海水族館にて

しょっぱ～い！

ほらっ！もっと登れるよ！

オキナワとフクシマ（参加者の感想から）

今回の保養で、僕は初めて沖縄を訪れました。それまで僕にとって沖縄は、テレビや新聞や教科書の中でしかふれたことがなかったので、少し遠いところでした。僕がこの保養に参加しようと思ったのもなんとなく、沖縄は海が青くて、一年中暖かくて、とてもおもしろいところだというふわふわした考えがあったからです。（中略）僕たちの保養で一番最初に訪れたところは佐喜真美術館でした。そこで僕が目にしたのは、何枚もの戦争の絵でした。最初はなにが描かれているのかよく分からなかったけど、解説員の方の話を聞くうちに、鳥肌が立ちました。なぜなら、絵の中にある死や狂気はフィクションではなく、かつて沖縄にあったものだと知ったからです。さらに衝撃を受けたのは、美術館の屋上に上ったときです。解説員の方が、「この林のむこうに基地があるんだよ」と言ったとき、ふと僕は、林の中にほこらのようなものを見つけました。「あれは何ですか」僕が尋ねると解説員の方は悲しそうな顔をして言いました。「あれはお墓です。しかし、そこに行くことはできません。なぜなら、基地があるからです．．．．．．」僕は言葉を失いました。テレビで報道される、米軍基地の陰には、いくつもの理不尽があったのです。その感情は伊江島で飛行場を見たときにも感じました。今、福島は国から様々な理不尽をつきつけられているけれど、沖縄は70年間、それに耐えてきたのです。それを知ったとき僕は今まで何も知らなかったことを申し訳なく思いました。沖縄では戦争は終わってなかったのです。この保養で、楽しかったことを数えるときりがありません。でも、学んだこともそれ以上にあり、僕達の未来の指針となるべきものを見つけることができました。これからももっと沖縄とつながりをもって行きたいです。　10代　男の子

震災から4年。振り返ってみると、あっという間の4年間でした。
誰を信じたらいいのか？何を信じたらいいのか？
本当はどうなんだろう？安心って何？安全って何？疑問だらけの4年間。
きっと一生答えはでないし、何か異変がでても関連は認められない。
その中で自分ができること。窓を開けない。洗濯物を外に干さない。
外で遊ばせない。マスクをする。なるべく肌を出さない。水を購入。
県外産の食材を購入する。長期の休みには福島を離れる。
必死で子どもの為にできることをやってきました。
たくさんの方のあたたかい支援に支えられ、人のつながり、心に寄り添ってもらう心強さ。私達の事を忘れずにいてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。
私も、人の心に寄り添える人になりたいと強く感じた4年間でした。
今回沖縄での6日間。
TV等では伝わらない思いや現状が福島と重なりました。
楽しい沖縄だけでなく、戦争中、戦後、現在までの苦しく、悲しく、悔しい沖縄の現状を少しだけでも知ることができ、何事も無関心ではいけないと思いました。
福島へ帰っても沖縄の皆さんの事を思いながら関心を持って寄り添っていけたらと思います。また元気な笑顔で再会できる事を楽しみにしています。
今回の保養の為に色々準備してくださった方々に感謝します。
本当にありがとうございました。　40代　母親

沖縄県名護市辺野古にて

沖縄教区・ぎのわんセミナーハウスのみなさま　ありがとうございました！

沖縄での凄惨な地上戦から70年、基地が未だあるばかりか、新たに建設すらされようとしている昨今、期間中には、観光地だけではない「戦地」である沖縄の一面にも触れました。たとえどんなに困難な状況であっても、沖縄の方々の挫けないつよさや優しさ、平和への誓いや祈りに包まれた6日間でもありました。今保養プログラムで大変お世話になった沖縄教区のみなさまをはじめ、全ての関係者・ご支援の方々に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

沖縄教区のみなさま
ありがとうございました

ぎのわんセミナーハウスでの歓迎会にて